

# せいらんそう

社会福祉法人  
芳香会誌  
第 1 8 号  
2012年6月発行



たま保育園  
端午の節句を祝って、鯉のぼりのもとで記念撮影を行いました。

## もくじ

## CONTENTS

24年度の目標	・・・2
委員会トピックス	・・・2
<b>防災特集～備えあれば憂いなし～</b>	
尾崎地区	・・・3
上大野地区	・・・3
結城地区	・・・3

### 児童施設トピックス

たま保育園	・・・4
牛ヶ谷保育園	・・・4
2保育園合同	・・・4
<b>実施報告・新たなる広報活動</b>	
高校生がんばる	・・・5
福祉の仕事始めませんか？	・・・5

被災地支援を振り返って…

被災地支援を振り返って…	・・・5
芳香会活動報告	・・・6
芳香会スケジュール	・・・6
編集後記	・・・6



2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

# 二十四年度を迎えて



理事長 宇留野光子

二十四年度を迎え、前年度の報告とともに、以下の五つの目標を掲げる。

## 一、職員研修体制の強化とOJT研修の充実

目標では掲げたことではあるが、様々な形で入職してくる職員像から日々の業務指導や研修がなされ、各事業所の安定した運営内容が認められる。その一方では、少数の職員職種でもある管理栄養士・事業所内単一職種の保育士への指導助言を外部の専門職から定期的に仰ぐことの準備を進めた。このことは、二つの職種の職員からも機会を活かし、業務に反映できそうであるとの声も聞かれ、今後は複数年の導入計画を策定して行く。

## 二、障害者分野の在宅事業の充実

法人内の関係事業所が、共同で事業を実施していることから職員間の連携や学習においては、充分とはいえない。特に年度後半においては「訪問介護事業所」の障害者利用増加に伴い、介護員の育成については早期に対策を練ることが課題となった。次年度においても関係機関の連携を強化し在宅事業の充実に努める。

## 三、防災・防災に強い環境づくりを目指す

今年度も複数の建物改修工事や設備更新を実施してきたが、未だ防災・防災に係る対策は不十分である。今後は複数年の計画を策定し、各地区の環境を含め取り組んで行く。

## 四、地域貢献事業・被災地支援活動の

### 内容充実と今後の活動

地域貢献事業においては、エコ・リサイクル委員会をベースとして三地区の活動実施協力者が年々増加していることは大変喜ばしいことでもある。また、今年度は全事業所の職員会議時に法人全体の地域貢献活動を委員が出向きその説明を行った。

今後多くの職員に理解を促し、活動を体験しその協力者となり内容が充実することを目的として行く。また、被災地支援活動も種々の内容で一年間の支援を継続してきたが、次年度には新たな体制を作り二年目の活動と実践内容を強化して行く。

## 五、地域生活定着支援センターを支える活動

事業を開始し、一年半が経過した。法人全体の取り組みとして実施している「社会貢献活動」「協力雇用事業所」において、関係機関との話し合いや具体的な調整がかなり必要であることを知る一年間でもあった。次年度はこのことを踏まえ、関係機関・団体との融合をはかり、内容の充実に努めたい。

## 広報・研修委員会トピックス

広報・研修委員会は、「HP等の広報活動」や「職員対象の研修会・勉強会の企画」を中心に取り組んでいます。平成二十三年度には委員会内体制をリニューアルし、様々な取り組みを行いました。その成果の一つが役付職員を対象とした研修会です。

平成二十三年度の役付職員研修会では、二つの新たな試みを行いました。一つは「遠方である那須の地での二泊三日の宿泊研修を実施」したこと、もう一つは「日本能率協会マネジメントセンター」を活用したことです。

那須で実施した研修では、参加者一人ひとりが主体的に、且つ高い意識を持って研修に臨んでいました。他事業所職員との議論を通し、多くの刺激、多くの気づきを得ている姿が大変印象的でした。参加者からの感想には「役付職員としての役割を自覚し、実務の中核として仕事に取り組みたい。」との意見を多く頂き、研修会実施の目的が遂行できたと考えています。そしてこの新たな試みは、研修に新鮮さや開放感を与え、非常に有用に作用したと思います。



二月末には、右記の研修で作成したアクションプラン(職場の問題・課題への改善計画)の実践経過・結果を報告しあう、第二回役付職員研修会を実施しました。パワーポイントを用い、決められた条件に基づいて、それぞれ工夫を凝らした資料が提出されましたが、資料はもとより実践の報告においても、互いに気づきや刺激を受ける発表があり、相互研鑽が図れたようです。一人ひとりが皆の前で堂々と自信に満ち溢れた表情でプレゼンテーションを行う姿に、個人、組織の確かな成長が垣間見られました。

平成二十四年度においても、目的を遂行し、有意義な役付職員研修となるよう準備を進めていきたいと考えています。

広報・研修委員会

## 防災特集

〽備えあれば憂いなし〽

昨年三月の東日本大震災を踏まえ、芳香会では、防災意識が高まり、各地域で防災に関する様々な取り組みを行っております。

そこで今号では、各地区で行っている防災に関する取り組みを紹介致します。



### 尾崎地区

#### 【避難場所の確保】

古河市尾崎地区には、路のとう舎とつくし園が隣接しており、昨年の東日本大震災の際に初めて震災対応を行いました。その際にご利用者の避難の想定外の問題点として、施設の建物が損壊した場合、建物外の安全な避難場所が狭まることが気付きました。近年は社用車、職員の車両等の増加により避難場所の確保が難しくなっています。

また、特につくし園のご利用者は、多くの方が車いすを使用しているため、遠くまで逃げることは不可能でもあります。

そこで、尾崎地区では、火災や震災などの有事の際に速やかに避難誘導できる場所を確保するために、施設近隣の土地を購入することを計画しております。

この整備計画により、施設のご利用の避難スペースとして活用するのみならず、普段、施設の運営に対し協力をいただいている地域住民の方々の避難場所としても活用することを考えております。



### 上大野地区

#### 【防災備品の充実】

社会福祉施設が被災し、ご利用者を安全な場所に避難させた場合、その次に、その避難場所をご利用者いかに安全に過ごしていただくか、ということを考えなければなりません。

現在、各地区ごとに「防災倉庫」を確保し、防災物品等を保管しておりますが、昨年の東日本大震災を教訓に、改めて防災物品の洗い出しを行いました。

その結果、これまで「万全」だと思っていた防災備品で

すが、実際には不足物品が多々あり、有事に備え必要な物品を買い揃えた結果、現在の「防災倉庫」に余裕がなくなり、必要な時に、必要な物品が速やかに取り出せない、という問題が発生しました。

そこで、療護園、療育園、ケア・アシスタンスがある古河市上大野地区では、防災備品を収納する「防災倉庫」を新たに設置することとなりました。

新しい「防災倉庫」は、従来のものと比較し、

大きさはもちろんのこと、強度が増し、耐久性にも優れたものとなります。

今後は、地域の方々への避難協力体制も取ることが出来るよう準備をしていきます。



### 結城地区

#### 【土砂災害に備える】

結城地区にある養護老人ホーム、特別養護老人ホーム等が立つ場所は、あまり聞きなれない「土砂災害警戒地域」というものに指定されております。平成十三年に施行された土砂災害防止法の中で、土砂災害から国民の生命及び身体を保護するため、土砂災害が発生するおそれがある土地の区域を明らかにし、その区域における警戒避難体制の整備を図るものとされており、平成十九年六月に結城地区が土砂災害の危険性があると専門家から判断されました。

そのため毎年、結城市が主催者となり、結城市、消防署、警察、消防団、自治会、ボランティア、地域住民、施設職員等百名近くの方が集まり訓練を行います。訓練内容は、土砂災害の怖さを知ることから始まり、各機関の連絡体制や、警戒発令からの避難誘導の動作確認等、年々、より実践的になってきております。今年も六月二十四日に四回目の土砂災害訓練を実施致します。

防災訓練を行う上で最も重要なことは、その土地柄や風土等の環境に合った訓練を行うこと、被害を最小限に抑えることが目的となります。

訓練や防災意識を持つことも重要ですが、地域の方々とともにこの活動から構築されるネットワークが何よりも心強い災害対策になるものと考え、これからも地域の方々とともに「防災」について考えていきたいと思っております。



## たま保育園



### 食育の取り組み

たま保育園の食育は、食事は基本的に楽しいものであり、子どもたちには「自分に配膳されたどんなものが体に良いか、どれだけ必要なかが分かる、そして必要なものを摂る力」を付けられるよう援助する事を目的としています。

普段の給食では、三歳児以上の幼児クラスは、ランチルームにて全員で食事をします。配膳では、給食当番や保育士に自分の食べられる量（少なめ、普通、いっぱい）を伝え、自分で食べられる量の把握と食べきった満足感を味わいます。繰り返すことで自分の適量を知り、残飯が減っていきます。

また食事では、異年齢のグループでテーブルに座り、年上の子は年下の子の手下となり、年下の子は年上の子に憧れの眼差しを向ける姿が見られます。同年齢だけの集団では味わえない育ちが異年齢保育の中にあると考え、日々保育にあたっていきます。

三歳児未満の乳児クラスは、『楽しい雰囲気の中で食事をする』を目的とし、子どもと一緒に保育士も食事をしています。一緒に食べることで、食事の仕方を覚えたり様々なメニューを食べてみようという気持ちが生まれるようになります。

今後も、子どもたちに食べることの大切さを



伝え、健康な体づくりへの関心を促していただけるよう、工夫していききたいと思えます。

### 「カッパ」が来たクロネコヤマトのお兄さんたち

前年度には、婦人警察官による交通安全教室を開催しましたが、今回は地元のコロネコヤマトのお兄さんたちによつて頂きました。

お兄さんたちの丁寧な説明を聞き、子どもたちも「自動車の危険」と「交通ルールを守ることの大切さ」が理解できたようです。

また来年も宜しくお願いします。



## 牛ヶ谷保育園

### お年寄りとのお触れ合いから

二月に保育園の近くにある「デイサービスゆうりん」を年長児が歩いて訪問し、お年寄りの方と交流してきました。法人内の高齢者施設との交流会を実施してきました

が、他法人の高齢者事業所との交流会は今回が初めてでした。家族構成の影響で日常的にお年寄りの方と接する機会が少ないため、最初は緊張気味の園児たちでしたが、肩たたきや簡単な触れ合い遊びを通してスキンシップをはか

り、しだいにお互いの笑顔が増えてきました。また鼓笛で「見上げてごらん夜の星を」を披露した時には、大きなアンコールの声援を頂き、園



児たちも嬉しそうに堂々と応えていました。最後に、園児たちの手作りペンダントをお年寄りの方一人ずつ渡しに行くところ「ありがと」と温かい言葉をかけて頂き、充実したひとときを過ごした園児たちにはとても良い体験となったと思います。

## 二保保育園合同

### 地域の方ときれいな自然を

昨年が続いて、五月十二日に行われた「ほたるの里」の清掃活動に二保保育園の職員が参加しました。「ほたるの里」はネーブルパークの一角にあり、地域住民で組織された「ほたるの里友の会」の皆さんがホタルを呼び戻そうと活動しています。今回の作業内容としては、主に敷地内の草刈り、ゴミ拾い、ザリガニの駆除が中心でした。その他、ホタルが卵を産みやすいように石にコケを付けて川に設置しました。作業をしている最中に、「友の会」の皆さんから「昔はきれいな環境であったため、このように清掃活動をしなくてもホタルは自然と育っていた」というお話を聞くことができました。ホタルなどの生き物も人間と同じで、環境はとても大切なのだと改めて感じました。

毎年六月初旬に開かれる「ホタル祭り」は今年で九回目を迎えますが、夜になるとホタルが舞い、多くの参加者の感動をよんでいるそうです。

保育園でも、このような活動に積極的に参加しながら、園児たちにも自然環境の大切さをもっと知ってもらえるように働きかけていきたいと考えています。



# 高校生がんばる



近隣の高校生を対象としたインターンシップを開催して今回で第六回目となりました。現在では、福祉分野の職種だけでなく「管理栄養士」といった職種に枠を広げて実施しています。

ここでは、参加頂いた高校生の声をご紹介します。  
参加者の皆さんには、様々なことを感じて頂いた様で、職員側からは思いもよらないような意見も頂きました。



Q 職種のイメージは変わりましたか？  
A もっと暗い所かと思っていただけ、皆さん明るく楽しそうだった。

## 【介護職体験のKさん】

自分が思っていた以上に看護師の仕事が沢山あることに気付けた。

## 【看護師体験のIさん】

Q 施設や職員の雰囲気はどうですか？  
A 利用者の方が笑顔でとても癒された。

## 【相談員体験のTさん】

進路についての質問にも詳しく答えてくれて、為になる話を聴けた。

## 【栄養士体験のNさん】

Q 感想を一言お願いします。  
A 病院の業務しか知らなかったのですが、福祉施設でも理学療法士が居るなんて思ってもいませんでした。考えが少し変わりましたが、夢に向かってがんばろうと思います。

## 【理学療法士体験のSさん】

# 新たな広がる広報活動

芳香会ではこれまででも会報やその他、各種研修会などを通して、様々な広報活動を行ってきました。今回は新たな広報活動として、芳香会の活動報告や福祉の仕事を知っていただくための紹介DVDを制作しました。

## 福祉の仕事始めませんか？

「福祉と聞くとどんなイメージがありますか？」あなたならどのように答えますか？



今回、広報・求人活動の新たな広報の一つとして作成しましたDVDは、このフレーズから入ります。実際に高校生にインタビューを行い、高校生がどのように「福祉」について感じているのかを聞いてみました。

それに対して、福祉施設で働く職員のコメントを対比させ、七分三十秒という短い時間で表現しています。高校生へインタビューを行ってみると、「福祉」が具体的にイメージされていないという現実がありました。そこでDVDのテーマを「福祉の心を次代に」とし、共に支え合い、寄り添いながら、人が成長していく福祉の仕事の原点を色々な方に知って頂くものを作りたいと思いました。「福祉」を知るちよっとしたきっかけ作りになればと思います。人が人を支える豊かな日本の未来作りの為に、福祉に携わる私たちに出来る小さな活動を続けていきたいと思えます。

## 被災地支援を振り返って…

平成二十三年三月十一日に発生した震災以降、芳香会では被災された方々のために「私たちに何が出来るのか？」を常に考えながら被災地支援活動を行なって参りました。

支援活動の内容については、県内避難所での炊き出し、宮城県内への支援物資輸送、セルプ商品の代理販売、宮城県・岩手県への専門職派遣など、法人内の多くの職員、そして法人全体のバックアップのもと支援活動を継続してきました。

そこで多くの職員が携わってきた支援活動を振り返り、今後の活動に繋げていくことを目的として、活動内容やその経過等を十分程度のDVDとしてまとめました。これは今回の震災や支援活動を忘れないための記録ということだけではなく、私たちが行なってきた活動を次の世代へと伝えるための一助になればとの思いもあります。

また、支援活動を行う上で活動費は必要不可欠です。そこでこのDVDを法人内の職員を対象に販売し、今後の被災地支援活動費の募金としました。四十名ほどの有志の方々から協力をいただくことができ、微力ながらも協力したいという同じ想いを持つ方が多く、嬉しく思います。

このDVDで記録だけではなく、活動者の想いが伝わればと思います。





# 私たちができること



昨年度より、移動献血事業を行っています。この取り組みは、芳香会職員のアイデアがきっかけとなり、多くの職員の協力により実施しているものです。街頭での献血には限界があり、企業での実施は確実に職員の協力を得ることが出来るので、かなり有効だそうです。今後もお役にたてるよう、継続していきたいと思いません。今回

も職員はもちろん、外部事業所の多くの方にもご協力頂きました。有難うございました。

## 献血の結果

実施者：60名  
(申込者：75名)

献血量：20,400ml



# 応援します

\*フィリピン人介護福祉士候補者受入\*



平成二十四年度、芳香会では第二回目のフィリピン人介護福祉士候補者の受入を行います。青嵐荘療護園にて既に二名の受入を決定しており、五月二十七日に七十一名の介護福祉士候補者が来日、日本語等の研修を受ける為、六ヶ月間大阪の研修所に滞在します。五月二十八日、その開講式に行ってきました。平成二十二年から特別養護老人ホームで働いている先輩候補者ジョアンさんにも同行して頂きました。



既に日本で頑張っている先輩を尊敬のまなざしで見つめるミヤミさんとミレットさん。不安はあるようですが、先輩の生き生きとした姿が励みになったようです。芳香会では、彼女たちの日本での仕事を出来る限り支援をしていきたいと思っています。その為にどのように多文化共生を考えていくかが重要であると考えます。最後に、ミヤミさん、ミレットさんより一言頂きました。「皆様と働くことを楽しみにしています。今は大阪で一生懸命日本語を勉強して、コミュニケーションが出来るようになります。宜しくお願い致します。」

## 広報研修委員会からのお知らせ

四月一日、ホームページが新しくなりました。皆さんによりわかり易く、芳香会をより身近に感じて頂けるような役割が出来ればと思います。トップページには「ECO INFO」として、芳香会で取り組んでいるエコ活動の成果を掲載しています。毎月更新していきますのでお楽しみに。ホームページには芳香会の情報が凝縮されています。これからもご期待下さい。

## 芳香会ステージジュール

七月二十四日 第三者委員会(上大野)  
二十五日 第三者委員会(結城・尾崎)

\*七、八月 各地区、各保育園夏祭り

向日養を育てています。詳しくは次号でお知らせします...



## 編集後記

先日、学会出席のため熊本に行つて来ました。シンポジウムでは熊本の水俣病・ハンセン氏病等の歴史と現在とそれぞれ立場の異なるシンポジストの熱い思いが語られました。人として、どのように向き合うか?そしてどう行動するか?そのことの重要性を痛感した二日間でした。(光)

司福祉の仕事に従事して一年半、手探りながらも色々なことが見えてきました。安心して毎日を過ごせることの有難さ、当り前の小さな幸せを大切に、今、ここにいることに日々感謝です。(加)

献血の際は真っ先にと考えていましたが、体調を崩して果たせず、それどころか私が周囲の方に助けて頂く事になり…。申し訳ないと思いつつながら皆の温かさを感じ有難く思う出来事でした。今後も体調管理に気を付けて頑張ります。(房)



## 社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス [honbu@houkoukai.or.jp](mailto:honbu@houkoukai.or.jp)

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。